

～ 2018年度に向けて ～

(公社)千葉県サッカー協会 審判委員長 山岸 佐知子

柔らかな日差しに本格的な春の訪れを感じる今日この頃、皆さまにおかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

昨年度は千葉県にとって大きなニュースがありました。千葉恵美さんが2017シーズンなでしこ最優秀審判に選出されたこと、そして上田千尋さんが女子1級審判員に合格したことです。千葉県からの女子1級誕生は千葉さん以来12年ぶりとなります。今後のお二人の益々のご活躍をお祈りすると共に、我々も仲間の活躍に刺激をもらい更に活動に力を入れていきたいところです。

さて、現在千葉県にはおよそ12000人の審判員の方々が登録されています。我々の今の環境があるのは、先輩方がその礎を築いて下さったからです。さる2月23日、千葉県初の1級審判員でもおられ、長年に渡り千葉県サッカーの発展にご尽力され



た畑山明氏をご逝去されました。謹んでここにご冥福をお祈りすると共に、畑山氏の意味を継ぎ、更に次の世代へとつなげられるよう取り組んでまいりたいと思います。2018年度は昨年度の流れを受け、更に審判インストラクターの育成・指導力アップに力を入れると同時に、各カテゴリーへインストラクターを派遣することで審判員のレベルアップの一助となるよう取り組んでまいります。本年度も何卒よろしくお祈り申し上げます。

永年功勞表彰者のみなさま

～永年に亘りご尽力いただきありがとうございます！

今後もご活躍を期待致します！！(敬称略)

≪20年表彰者≫相沢 弘幸、石井 光信、小泉 浩史、篠田 実男、田中 英男、山野邊 泰洋

≪30年表彰者≫柿沼 輝信、齋藤 孝一、鷲 慎一、櫻井 得雄、相岡 浩康、鈴木 正則、高橋 健志、長嶺 和男、藤枝 良爾、藤田 直行

5月12日(土)15時40分より千葉市生涯学習センター3階特別会議室で表彰式を行います。

祝福のために参加をご希望の方は、当日会場にお集まり下さい。

今日も地域で頑張っています！！



～いつも各地の大会会場で頑張って審判している方々を紹介します～

【柏市サッカー協会】

2018年1月14日(日)柏レイソルU-11サッカーフェスティバル

～柏レイソルグラウンド人工芝、天然芝～



千葉県内では様々な大会が開催されていますが、そこで日頃から活躍している審判の方々にスポットを当てて取材しました。今回は柏市サッカー協会審判委員会の皆さまを中心にインタビューをしました。

- ①:氏名(敬称略) ②:審判歴 ③:審判になったきっかけは?
④:審判活動で印象に残っていること ⑤:これだから審判は辞められない審判の魅力とは?



- ① :越沼 和行(こしぬま かずゆき)
- ② :約20年
- ③ :最初に所属したクラブで、チーム数が増えたので資格を取るよう頼まれたこと。
- ④ :私が審判をしていた訳ではなく、自分が帯同していたチームの試合ですが、GKがハーフウェーライン付近まで上がっているのを狙われてロングシュートを打たれてしまい、バックの選手が必死にボールを追いかけてギリギリでクリアしましたが判定はゴールイン。ところがその副審はボールを追うこともなくゴールラインどころかペナルティーエリアの枠にも達していない位置からゴールインの合図を出していて、レフェリーもそれを認めて相手の得点となりました。それ以来、自分が審判を任された試合は、笛であろうと旗であろうと一生懸命頑張ってプレーする選手に恥ずかしくないよう自分も一生懸命頑張ってジャッジするよう心掛けています。
- ⑤ :子供達が頑張る姿や試合を通して成長する姿を同じ空間で見守ることが出来る場所です。



- ① :佐藤 裕(さとう ゆたか)
- ② :平成4年3月8日4級取得、平成8年6月30日3級取得、現在に至る。
- ③ :子供が小学4年生時に地元の少年団に入団し、その団の行事で団員と親との交流戦がありました。その交流戦で団の役員の眼にとまったらしく、すぐさま声をかけられまして、コーチの大半がサッカー未経験者のため、是非コーチを引き受けてほしいとお願いされて、私も中学からサッカーをしていたもので快く引き受けまして、審判の資格も取得することになりました。
- ④ :現在に至るまで多くの試合を担当してきましたが、4級から上級の3級になってから間もなくして割り当てをもらい、初めて90分の試合を担当(副審)したのが印象に残っています。
- ⑤ :試合会場はドラマで、どの種別の試合でも主人公は選手たち(審判は黒子)であることを念頭において、主審のホイッスルで試合をコントロールしながら、選手たちと一緒にグランドを走れることが魅力ではないでしょうか。そのように思います。



- ① :下村 晃弘(しもむら あきひろ)
- ② :2006年に最初に4級を取得してから12年目になります。(現在は3級です。)
- ③ :息子が小学生の時に柏市内のボランティアチーム(豊四季FC)でお世話になりましてその後、流れで私もボランティアコーチとなり、試合の際に審判資格が必要となり取得しました。
- ④ :審判を始めた当初、県のブロック大会審判に赴き、そこでミスジャッジなどをしてせっかくの日曜日なのに、かなりへこみ翌月曜日まで引きずっていたことを今でも時々思い出します。
- ⑤ :私の場合、主に小学生の試合の審判ですが、副審の方ともうまく気が合って試合を上手に流すことが出来、更に試合終了後に両チームの子供たちのいい表情を見ることが出来たとき、これは辞められない！というすがすがしい気持ちになります。(逆に、そうではない時には、辞めたい！と思うときもあります。)また、普段の試合や審判更新講習の際に、上級の方やインストラクターの方に「あそこは、こうすればもっと良くなる」などとアドバイスを頂いた時には、もっと頑張らなきゃとも思います。



- ① :佐野 晴彦(さの はるひこ)
- ② :約10年
- ③ :高校生の時、練習試合で副審を務め、先生によくできていたとおだてられたこと。その後空白期間ができてしまいましたが、きっかけといえばその時ですね！
- ④ :ジュニアユースとユースを初めて担当した時、何れも全くうまくいかなかったこと。
- ⑤ :試合前の高揚感と試合終了後の爽快感。様々な人との出会いです。